

体験から考える「私たちのしあわせ」

障がいがある人を表す言葉を、友だちを馬鹿にする場面で使っていることに衝撃を受けた、長野市立保科小学校の篠原先生。「差別はいけない」と伝えるだけでなく、障がいがある人を丸ごと知って、共に生きていける子どもになってほしいという思いから始まったのが、障がい者施設との2年にわたる交流でした。

「差別・排除はいけない」という抽象的なことを自分の心で感じ、具体的に実行すること。交流を通して、子どもたちは「ノーマライゼーション」を学んでいきました。
▶詳しくは、4ページへ

駒ヶ根市立中沢小学校がある中沢地区は、高齢化が進んでいます。だからこそ、この子どもたちは地区の宝！学校を地域に開き、地域の人々がみんなで、子どもたちの学びや体験を支えています。

地域の中に学校があるように、学校の中に地域が入り込んでいる、「信州型コミュニティスクール」の事例です。
▶詳しくは、22ページへ

3月11日、震災の犠牲者を思って黙祷した、飯山市立常盤小学校の子どもたち。被災地の人々の思いに近づく手がかりとして、かつて常盤地区を襲った大水害で被災した人の聞き取りを行いました。

自分たちの地域の災害の記憶から、「ふるさと」を考えた事例です。ふるさとを離れざるを得なかった被災地の人の気持ちに寄り添っていきます。
▶詳しくは、24ページへ

辰野町立辰野中学校の伝統の活動が、地域の桜並木の清掃です。50年前に、一人の生徒の思いから始まり、代々の生徒たちに引き継がれてきた活動です。今ではボランティアセンターを拠点に、桜並木があるまちづくりを地域の人と一緒に考えています。

ボランティアセンターが関わることで、中学校の活動と地域の思い、様々な人々がつながって、みんなでまちづくりを考えることができました。
▶詳しくは、28ページへ

「いじめ」は切実な課題です。高森町立高森中学校生徒会では、高森中からいじめをなくす運動に取り組み、その思いをどんな決まりより重い学校の「憲法」として制定しました。「憲法」はやがて町を動かし、条例に育っていきました。

「憲法」という形にしたことで、メッセージがより大切なものになりました。中学生の思いが行政を動かした事例です。
▶詳しくは、42ページへ

依田窪南部中学校では、使わなくなった通学カバンをネパールの学校に送っています。大切にしてくれる遠い国の子どもの姿に、自分たちの暮らしを振り返ります。

小さな行動でも、みんなで取り組めば大きな力になります。古いカバンが遠い国と私たちをつないでくれました。
▶詳しくは、52ページへ

東日本大震災の翌朝、震度6強の大地震に見舞われた栄村。避難生活を助けてくれた人々に恩返しをしたいと、栄中学校の生徒たちは、得意の歌で感謝と元気を届けました。「栄村のために何かできませんか」と言ってくれた中学校にも協力を呼びかけました。

災害に見舞われて悲しい思いをしても、その試練がたくさんのことを教えてくれました。当事者だからこそ発信できることがあります。
▶詳しくは、54ページへ

しあわせに生きる力をはぐくむのが「福祉教育」

福祉教育の始まりは、身近なしあわせ・ふしあわせへのちょっとした気づきです。それを自分の生活に引きつけて考え、共有し、行動するのが福祉教育です。「福祉(welfare)」について知るだけの学びではなく、基本的人権と民主主義に基づいて、社会の中でどう生きていきたいか、幸せな生き方とはどんな生き方かという、本当の意味での「ふくし=well-being」を、関わりの中で具体的に「実現していく学び」です。

各学校、地域でさらに豊かに取り組むためのガイドブックとして、この「実践事例集」を活用してください。

掲載事例のご案内

いま・ここから、しあわせづくりの福祉教育を始めよう。では、具体的にはどんなことをすればいいの？… 次のページから、その実践事例をご紹介します。掲載事例は5つの視点で分類しています。

「様々な人とともに生きる」をまなぶ

わたしとは違う人に出会い、違いを持つ人とともに生きることを考えた事例

障がいがある人、高齢の人、外国から来た人…。違いはあるけど、みんな同じ人間。「違い」と「同じ」の間を歩き来する中に沢山の驚きと感動があります。それが「共に生きる」のはじまりです。

「地域とともに、地域で生きる」をまなぶ

地域の人々と、地域の良いもの、課題に気づく、考えた事例

この地域の先輩たちや豊かな自然、目の前の課題に目を向けます。「ふるさと」ってなんだろう、どんな地域に暮らしていきたいかを考えます。

「足元から、社会を変える」をまなぶ

目の前の課題に向き合い、その解決方法を考え、社会に働きかける事例

子どもたちのまなざしでみた社会には、たくさんの矛盾や課題があります。その解決のために、自分たちで考え行動する、「社会参画」の第一歩です。

「みんなで協力して、大きな力を育てる」をまなぶ

小さな思いや行動を集め、大きな力に育てた事例

どんなふうに仲間を募り、力を集め、育てていくか。その力をどう生かすか。様々な工夫をしながら、地道な活動を続けている事例です。

「悲しい経験をした人に、思いを寄せる」をまなぶ

災害で被災した人に思いを寄せ、共感を持って行動した事例

東日本大震災、長野県北部地震は、みんなの心を揺さぶりました。ほっとけない、をどんなふうに力に変えたか、災害から振り返って私たちはどう生きていきたいかを考えます。

1 ともに生きる
2 地域で生きる
3 社会を変える
4 協力して大きな力に
5 思いを寄せる